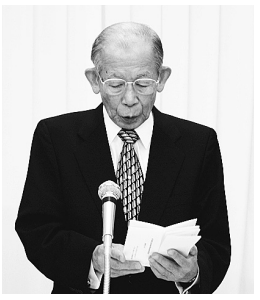
さらなる発展を願い 南米協会定期総会開催

南米ととやま
発行所
富山県南米協会
〒930－0096
富山市舟橋北町4-19
電話（076）441-6148
FAX（076）444-2179
北陸銀行県庁内支店
普通預金口座1098740
郵便振替口座00760-8-5145

新会長・理事長を選任

6月25日㈯、午後1時30分より当協会の平成23年度定期総会が富山市の名鉄トヤマホテル3階、緑風の間で開催された。総会では多数の来賓を迎え、新会長・理事長が選任された。

総会には会員らが多数参加


開会挨拶を行う鹿熊会長

開会にあたり、鹿熊会長が、次の旨、あいさつされた。

「本会は、昭和54年に発足し、設立33年目を迎える。

最近では、ブラジルから日本に出稼ぎに来ている日系人が約30万人をピークとして、景気低迷と東日本大震災により急激に減少している。

また、県内では日系ブラジル人の在住者が5年前のピーク時には四六〇〇人にのぼったが、派遣労働者の雇用環境が厳しく、多くが失業して生活に困窮し、在住者は約三〇〇〇人に減少していると聞いている。

本会は、今後、県内に在住している日系人に対する生活支援及び子どもの教育問題にも取組みを強化しなければならないと考えている

今後とも、現地県人会等との連携をさらに密にし、南米諸国との交流を深め、友好・親善の促進を目指して、各種の事業を推進してまいりたく、皆様のご理解とご協力を申し上げる。」

来賓からの祝辞

祝辞に立つ夏野局長

更なる交流推進に格別の尽力を

県知事代理としてご出席いただいた夏野修県観光・地域振興局長が、石井隆一知事からの次の旨の祝辞を代読された。

「貴協会は、昭和54年の設立以来、富山県と南米諸国との友好親善に努められ、本県の国際交流の推進に多大な貢献をいただいている。

県と南米諸国との交流については、現地県人会やブラジル・サンパウロ州政府と連携し、技術研修員や留学生の受入れ、日本語教師の派遣、友好記念奨学金の交付等の事業を実施している。

特に昨年は、県人のブラジル移住百周年、ブラジル富山県人会創立50周年、県とサンパウロ州との友好提携25周年という大きな節目の年にあたり、貴協会と連携して総勢53名からなる南米親善訪問団を派遣したところである。私も名誉団長として訪問団に加わり、初めてブラジルを訪問する機会をいただいたが、富山県人の方々の苦難に満ちた移住の歩みや今日の活躍ぶりを直に見聞きするとともに、BRICsの一角をなすブラジルの目覚しい発展や将来性の高さを実感したところである。改めて貴協会のご尽力、ご支援に厚くお礼申し上げる。

貴協会では、南米親善訪問団の派遣をはじめ、日本語図書の贈呈やポルトガル語教室の開催等の事業を展開しておられるほか、県内在住の南米出身者に対する食糧支援や学習支援などに積極的に取り組んで頂いている。今後とも、本県とサンパウロ州、そして南米諸国との交流推進に、格別のご理解、ご尽力を頂くようお願い申しあげる。」

南米との架け橋に

続いて、横山栄県議会副議長が坂田議長からの次の旨の祝辞を代読された。

「南米との交流の歴史は、ツなどあらゆる面で広がってきていることを大変喜ばしく思っている。貴協会は、設立以来、本県と南米諸国との友好親善、交流事業を実施され、大きな成果をあげてこられた。協会の会長・役員・会員の皆様の並々ならぬ熱意とご努力の賜物であり、深く敬意を表するとともに、感謝申し上げる。貴協会の今後ますますの活躍により南米諸国との国際交流がより一層深まることを大いに期待している。皆様方には富山県と南米諸国との友好親善の架け橋として、さらなるご尽力をいただきたい。」との激励を頂いた。

議会代表の横山副議長

海外技術研修員・森山氏の紹介

森山・マリエラ・メルセデス氏

今年度の海外派遣研修員として6月22日に来県された森山・マリエラ・メルセデス氏の紹介も行われた。マリエラさんはアルゼンチン共和国ネウケン出身。昭和25年に母方の祖父が福岡町から移住した森山家の3女。

アルゼンチンでは菓子職人として主に洋菓子を中心としたスイーツの製作にあたっていたが、「父の故郷である日本のお菓子の味と伝統を勉強したい」と一念発起し、今回の来県となった。

富山県では7月から9月まで高岡市の大野屋、10月から11月まで高岡市の中尾清月堂で和菓子の製造現場に立つこととなる予定。

森山氏は「父の故郷である日本に来ることができてとても嬉しい。ここで自分のルーツである日本の和菓子の味と伝統を十分に吸収し、アルゼンチンに持ち帰り、日本の和菓子のおいしさを伝えていきたい」と意気込みを語った。

また「富山について一番の驚きはどこに行っても立山連峰が目の前に迫るくらい、大きく見えること。私の生まれ故郷は草原が地平線にまで広がる光景がほとんどだったので新鮮です。」と富山に来た第一印象を語った。「富山は水がおいしいと聞きます。菓子作りには水はとても重要なファクター。アルゼンチンの伝統的なお菓子もここで作ればおいしいかも知れません。」と菓子職人ならではの意見も出てきたりと、今後が楽しみである。

総会の森山氏とエヴェルソン氏

マリエラさんのQ&A

- **日本に来て強く感じることは？**
  自国では日本人とみられ、富山でも亜国出身とは思われず、アイデンティティに違和感がある。
- **富山で行ってみたいところは？**
  五箇山地方と魚津の水族館
- **好きな日本食は？**
  魚が好き。富山湾のブリ
- **アルゼンチンと日本の違いは？**
  日本は緯度が低く夏の日照時間が短い（アルゼンチンの日没は22～23時）
- **得意なお菓子は？**
  コーンスターチと小麦粉で作るショートケーキ
- **日本に来て一番したいことは？**
  いろんなものを食べてみたい。

祝電一覧

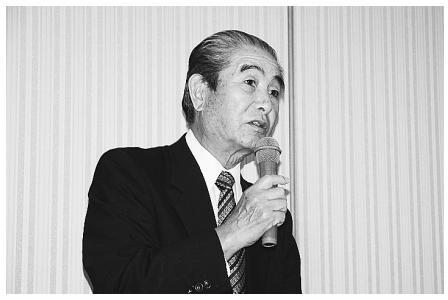
富山市長　森　雅志
射水市長　夏野　元志
上市町長　伊東　尚志
富山県議会議員　山本　徹
衆議院議員　長勢　甚遠・宮腰　光寛
橘　慶一郎
参議院議員　広野ただし・山田　俊男
又市　征治・森田たかし

南米協会新会長に
河合常則前参議院議員が就任

河合会長・四方理事長とともに
満場一致で選任

役員の改選について、板倉常務理事から、「皆様にはご承知のとおり、現在の役員の任期は2年となっており、本年が全員改選の年でありますので、本日の定期総会では、前年度と異動のある一部の役員を含め、全ての役員について、改選を致します。先ず、会長については、先の理事会において、平成7年以来これまで務められた鹿熊安正会長が辞意を表明されました。後任者についてお諮りしたところ、全員一致により、『前参議院議員の河合常則さんにご就任いただくことにしては、如何か』ということで、まとまり、ご本人の承諾が得られました。」との提案が行われ、全会一致で承認された。

河合新会長から、「皆様方の協力を得て任期を全うしたい。昨年は富山県人ブラジル移住100周年、ブラジル富山県人会発足50周年及び富山県・サンパウロ州友好提携25周年という節目の時期であった。今後これらを発展させるためにも、これまでの行事が続けられ、深まっていくようにしたい。」旨のあいさつがあった。


就任の挨拶を行う河合新会長

理事長に四方県議を選出

また理事長、常任理事の役員改選も行われた。

板倉常務理事はその中で「理事長について、前理事長の平村国光さんの後任として県議会から推挙された四方正治さんに、理事長としてご苦労をお願いしたく存じます。次に常任理事では、県議会から推薦いただいた坂田光文さん、高平公嗣さん、杉本正さん、坂野裕一さんを常任理事に推挙したいと存じます。」との提案がなされ、これも満場一致で可決した。

河合常則新会長のプロフィール

富山県東礪波郡城端町（現南砺市）出身
1955年　富山県立福野高等学校・1961年慶應義塾大学経済学部卒業
1964年　城端町議会議員に当選。以後連続３期務める。
1975年　富山県議会議員に当選。以後８期連続務める。
1991年　富山県議会議長に就任。
2004年　第20回参議院議員通常選挙に富山県選挙区から出馬し当選。
2006年　安倍内閣で総務大臣政務官に任命。その後、参院総務委員会理事。
2009年　参議院内閣委員長に就任。
2010年　任期満了により引退。

海外移住家族会
50周年記念講演

外務省渡邊審議官

中南米外交政策について

富山県海外移住家族会設立50周年を記念して、渡邊優外務省大臣官房審議官が「我が国の対中南米外交政策」と題して講演を行った。

渡邊氏は、日本の対中南米外交政策として①経済関係の強化②国際場裏での連携③安定的発展に対する支援という3つの柱について紹介された。

先ず、経済関係の強化について「中南米は新興経済地域で経済規模も着実に拡大している。かつては高インフレや債務など経済危機もあったが、過去を教訓とした健全な財政政策を行っており、GDPは中国と同規模にまでなった」と有望な成長市場であること、さらに天然資源や食料も豊富であり、日本としては官民連携を通じた経済関係の強化が求められることも強調した。

また連携では、国際社会での中南米の発言力も高まり、国連加盟国192ヶ国のうち17％にあたる33ヶ国が中南米に存在している。経済・気候変動・核軍縮・安保理改革など日本が様々な分野で協力できるフィールドがあり、効果的な働きかけが必要である。

一方で大きな貧富の格差がある事実も紹介。その結果、貧困層を支持基盤とする急速的な政権が多く誕生してきており、日本の取組みとしてODAなどの経済社会開発・民主制度定着のための支援が今後も重要になると解説された。

パワーポイントを使用しての講演

南米諸国との交流推進を期待します

五十音順

株式会社旭工業 代表取締役 前田誠 南砺市殿	射水建設興業株式会社 取締役社長 夏野麗子 射水市小島	魚津清掃公社 代表取締役 廣瀬和夫 魚津市大光寺	株式会社小川温泉 代表取締役社長 鹿熊裕二 朝日町湯ノ瀬	有限会社河合呉服店 代表取締役 河合常晴 南砺市城端
北日本印刷株式会社 代表取締役社長 川口秀春 富山市草島	北日本新聞社 代表取締役社長 河合隆 富山市安住町	高新工業株式会社 代表取締役 高平伸 立山町大清水	有限会社酒井工業コンサルタント 代表取締役 酒井佐和子 朝日町草野	坂井石油株式会社 代表取締役 坂井昭二 立山町坂井沢
新栄建設株式会社 代表取締役 高平剛 立山町大清水	株式会社新日本コンサルタント 代表取締役会長 市森武 富山市吉作	高岡地方交通株式会社 取締役社長 渡邊守人 高岡市末広町	株式会社タカギセイコー 代表取締役社長 笠井千秋 高岡市二塚	道路技術サービス株式会社 代表取締役 山本光夫 射水市橋下条

平成22年度事業報告並びに平成23年度事業活動案

平成22年度事業報告

鹿熊会長を議長として議事が進められた。まず、平成22年度の事業及び収支決算について、橘事務局長から説明が行われた。

①機関誌発行
「南米ととやま」年2回
「南米協会だより」年4回

②南米情報収集事業

③ポルトガル語教室の開催
（富山、高岡の二会場）

④県費留学生及び海外技術研修員の受入協力
交流事業開催などの支援を実施。なお鹿熊会長より小川温泉元湯へ宿泊招待、北日本新聞社より北日本新聞納涼花火大会への招待を受けるなど、当協会会員有志からも温かいご支援をいただいた。

⑤郷土訪問者の歓迎
今年度は伊東嘉章ブラジル県人会リオ支部長、タイス・ウエダ元技術研修生、川滝幾郎在アルゼンチン県人会会長の3名の方が富山に来県され、交流を深めた。

定期総会の様子

⑥南米関係者等との懇談・交流事業
南米諸国から県内大学等で研究、技術協力を行っている方々に対し交流機会を設けるとともに、交流行事への参加を呼び掛けた。

⑦移住関係者の援護事業

⑧現地の日本語の普及
県人会本部・支部17ヶ所に計351冊の書籍を寄贈。

⑨在県南米出身者支援
在住日系人への生活支援として、県産コシヒカリ、即席ラーメンを日系人援助団体と協力し支援した。
また、海外移住家族会と合同で子どもらに補習用教材等を提供した。
9月2日には、日系人の子どもが高校入試において、不利にならないよう何らかの配慮措置をとるよう鹿熊会長が県教育委員会に要望書を提出した。
さらに、本県在住の南米出身者の相談窓口となり、情報提供、助言、日本語支援等を行った。（個人営業開始の相談、乳児の保育園継続の相談など）

⑩県人移住者の調査事業・家族名簿補充
ブラジル県人会の精力的な調査により、昨年の富山県人移住100周年を祝う記念式典において、一九一〇年に旅順丸で渡航した県3家族がめでたく揃う場面があり話題に花を添えた。昨年の南米親善訪問団の派遣により、現地幹部との連絡が密になり、家族名簿等の再調査に向けての準備が前進した。

現地の記念式典であいさつする石井知事

⑪南米親善訪問団
昨年は、「富山県人ブラジル移住100周年」、「富山県人会発足50周年」及び「富山県・サンパウロ州友好提携25周年」が重なる節目の年に当たり、本県から石井知事、鹿熊県議会議長を含む53名がブラジル・アルゼンチン・ペルーの現地を訪問し、交流を深めた。
また、県内でも、富山県サンパウロ州友好提携25周年記念事業として、サンパウロ州代表団の日野理事ら2名を迎え、記念講演会、パネルディスカッション、記念交流写真展の開催等のほか歓迎交流祝賀会を行った。

南米親善訪問団の記録

以上の事業の成果並びに収支決算の内容が報告された。
この後、成瀬監事から監査報告があり、22年度事業報告、収支決算とも満場一致の拍手で承認された。

平成23年度事業活動案

次に、平成23年度の事業計画案及び収支予算案について橘事務局長より説明があった。
「本協会の設立目的に沿い、中南米諸国において活躍されている富山県出身移住者及び子弟家族との絆をより一層強めるとともに、父祖の郷土富山の地縁・血縁並びに風土に培われた文化をよりどころとして、将来にわたり本県と移住先との交流を深め、これらの諸国・地域との友好親善の促進に寄与する」ことを柱とする事業計画の案を述べ、従来の活動を基本としながらも発展させる考えを示した。

ホームページを更新

今年度は新たに南米協会のホームページを作成する。
「南米協会だより」「南米ととやま」を24時間自由にインターネット上で閲覧できるようにし、海外研修員の動向や海外派遣教員からみたミランドポリス・アリアンサなどの情報をリアルタイムで伝える。また富山の紹介としてライチョウ・チューリップなど県内の名産品・県鳥などを紹介するポルトガル語のページも設置する。
その効果は、富山だけでなく、全国各地、国外のブラジル・アルゼンチンなどからもアクセスが増え、今後は紙上だけでなくインターネット上での情報発信も可能となる。
近年のIT化が進んでいく中、会員のニーズに応じ、今後発展した活動が求められる。

リニューアルされたＨＰ

ポルトガル語表記のページを追加

「昨年のような訪問団派遣事業はないが、今年度は、南米からのアクセスが容易になるよう、新たにポルトガル語版のホームページを作成する」と述べ、現状のホームページをさらに発展させる考えを示した。
また南米に帰国するデカセギ日系人の増加に伴い、その子どもたちが帰国後に現地の教育に適応できるよう、日系人の子どもを対象としたポルトガル語教室の新設等、事業の充実に努めてまいりたい」旨の説明が行われ、満場一致で承認された。

南米諸国との交流推進を期待します

五十音順

にいかわ信用金庫
理事長　千田則行　魚津市双葉町

株式会社婦中興業
代表取締役社長　竹内茂　富山市婦中町速星

株式会社北日商会
代表取締役　竹内茂　富山市婦中町速星

北陸アルミニウム株式会社
取締役社長　荒井毅　高岡市笹川

株式会社北陸銀行
頭取　髙木繁雄
特別参与　八嶋健三
富山市堤町通

丸新志鷹建設株式会社
代表取締役社長　志鷹新樹　立山町芦峅寺

株式会社四方組
取締役社長　四方正江　射水市作道

米原商事株式会社
砺波市栄町

ＹＫＫ株式会社
代表取締役社長　猿丸雅之　黒部市吉田

祝「家族会」設立50周年
移住者を支え共に前進

富山県海外移住家族会
設立五十周年記念式典開催

南米協会の総会終了後、本会の姉妹団体で、昭和三十六年に設立されて以来、移住者の援護、留守家族間の情報交換等を目的として、半世紀にわたり活動してきた富山県海外移住家族会がこのたび設立五十周年を迎えたので、記念式典が開催された。

式典には70名を超す会員が出席

鹿熊会長あいさつ

冒頭、同会鹿熊会長から、「今日は、多数の来賓の皆様にご臨席頂き、海外移住家族会設立五十周年記念式典が開催できることは喜びである。

かつて本県から世界各国に約三千人の海外移住者があり、うち四分の三は中南米で、とくにブラジルに集中した。当時の長引く不況と過剰人口の対策として、国策により移民されたものである。昭和初期にアリアンサ富山村の分譲を受けた開拓農業移民が渡航されたが、他の多数は、資産もない農業労働者で、いずれも悲惨な苦労に耐えられた。

戦後は、子どもの教育を優先するため農村を離れ、都市又は近郊で洗濯店や花屋等へ転身した家族も多いと聞く。本家族会は、現地の困難な実情と要望を県行政に伝え、移住者援護及び情報交換を目的に昭和三十六年に設立された。そして県による移住者農地取得資金融資制度の導入、県費留学生・海外技術研修員の受入れ等に協力してきた。現在は、逆に、南米から日系人がデカセギのため、県内に多数在住し、その子弟の教育等に支援している。今後、南米は資源食糧等の供給基地として期待される。県出身者が多数現地で信頼を得て活躍されており、南米との交流を深めることは重要な意義がある。これまで支援をいただいた県当局をはじめ関係各位に心から感謝と御礼を申し上げる。」との挨拶があった。

来賓からの祝辞

次に、知事の代理として臨席された夏野修県観光・地域振興局長により、石井隆一知事からの次の旨の祝辞が代読された。

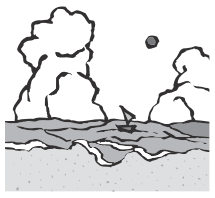
「グローバル化が進展する中で、真に心が通いあう交流を進めていくためには、行政だけでなく民間団体も含む幅広い交流が不可欠であり、富山県海外移住家族会の果たす役割は、ますます重要になる。五十周年を契機に、本県と南米をはじめ各移住先国との友好の架け橋として、一層のご尽力をお願いしたい。」（全文下段に掲載）

引き続き、県議会を代表して坂田議長に代わり横山栄副議長から、さらに移住業務を推進してきたＪＩＣＡ友部秀器北陸支部長から祝辞があった。

多数の国会議員が来臨

祝電一覧

富山市長　森　雅志
射水市長　夏野　元志
魚津市長　澤崎　義敬



中筋氏と中根氏を表彰

移住者の援護・支援に永年取り組んだ中筋國雄副会長及び中根英子理事（富山市海外移住家族会会長）が鹿熊会長から表彰された。

中筋副会長は、昭和55年に同家族会理事に就任。平成元年には副会長となる。31年にわたり、移住者の援護、留守家族間の情報交換等に尽力。

中根英子同会理事においては平成10年理事に就任。翌年から富山市海外移住家族会の会長を務める。

両氏は、いずれも同家族会発足と同時に同会員となり、相互親睦、家族間連絡及び移住事業の促進を図るため、活動に携わり発展に寄与し、他の模範となった。また、ブラジルを含む交流活動に積極的に参加するなど今後の活動にもいっそうの期待がされている。

永年の功績が認められた中筋氏

中筋國雄氏

中筋國雄氏

現職
（6月末まで）富山県海外移住家族会副会長
氷見市芸術文化団体協議会会長

経歴
公立小学校教員として27年間、奉職
昭和55年　県家族会理事
平成元年　県家族会副会長

中根英子氏

草の根活動を続けた中根氏

中根英子氏

現職
県家族会理事　富山市海外移住家族会会長
（前ブラジル県人会長根塚弘氏の姉）

経歴
平成元年　富山市海外移住家族会理事
平成9年　富山市海外移住家族会副会長
平成10年　県家族会理事
平成11年　富山市海外移住家族会会長
平成22年　とやま国際センター「草の根交流賞」を受賞

知事祝辞

石井隆一知事

紫陽花が鮮やかに咲き誇る季節を迎えておりますが、本日、多くのご来賓や関係の皆様のご出席のもと、富山県海外移住家族会の設立50周年記念式典がこのように盛大に開催されますことを、心からお祝い申しあげます。

貴会には、昭和36年の設立以来、50年の長きにわたり、本県移住者への援護や留守家族の相互協力の推進に努めてこられました。さらに、南米からの留学生及び研修員の受け入れ協力や、本県移住者の調査と名簿整備への協力などにも取り組まれ、移住先国との友好親善にも大きく寄与してこられたところです。

ここに、鹿熊会長をはじめ歴代役員、並びに会員の皆様方の並々ならぬご尽力に、心から敬意を表し、感謝申しあげる次第であります。

また、今ほど感謝状を受けられました皆様には、誠におめでとうございます。皆様方のご尽力に深く敬意を表しますとともに、今後とも一層ご活躍いただきますようお祈り申しあげます。

富山県から海外への移住は、明治18年（１８８５年）にハワイへ渡った6名がその始まりだと伺っております。以降、3千名余りの方々がハワイのみならず太平洋の向こうの国々へ雄飛されました。なかでも、南米諸国へは、明治42年（１９０９年）に県人16名がペルーの地を踏んで以来、2千名余りの方々がブラジル、アルゼンチンほか南米各地に移住されました。そして、移住された県人の方々は、持ち前の越中魂を遺憾なく発揮され、幾多の困難を乗り越え、現地社会の発展に大きく貢献してこられました。昨年、南米親善訪問団の一員としてブラジルを訪れた際に、先人の苦闘の歴史と現在の県人の皆さんの活躍ぶりをじかに見聞きし、富山県人として誇らしく感じたところです。

グローバル化が進展するなか、真に心が通いあう交流を進めていくためには、行政だけでなく、民間団体も含めた幅広い交流が不可欠であり、貴会の果たす役割はますます重要になるものと存じます。

貴会におかれましては、このたびの50周年を契機に、本県移住者と留守家族支援の中心として、また、本県と南米をはじめ移住先国との友好の架け橋として、一層のご尽力をいただきますようお願い申しあげます。

終わりに、富山県海外移住家族会の限りないご発展と、鹿熊会長はじめ、本日ご列席の皆様方のご健勝、ご活躍、ご多幸をお祈り申しあげまして、お祝いの言葉といたします。

平成二十三年六月二十五日
富山県知事　石井　隆一

海外移住家族会会長に 中筋氏を選出

中筋國雄氏

富山県海外移住家族会は6月25日、同会50周年記念式典に先立ち、正午から本年度の定期総会を開催した。恒例の前年度の事業報告・収支決算の承認並びに本年度事業計画・収支予算の議決の後、任期満了による役員改選が行われた。

これまで16年間にわたり、会長を務められた鹿熊安正元参議院議員が退任され、後任の会長には、副会長であった中筋國雄氏が選任された。

中筋氏（氷見市出身、経歴は4面に紹介）は、歴代の初代会長広瀬栄佐氏（黒部市）、2代目山田伊作氏（城端町）、3代目高平公友氏（立山町）、4代目鹿熊安正氏（朝日町）に次いで5代目会長に就任することになった。

新会長は、全国に存在する海外移住家族会と連携し、財団法人海外日系人協会の助言を得て、発展に取り組む。

前会長の鹿熊氏と固い握手

50周年を祝う合同懇親会

横山副議長の乾杯で和やかに開始

この後、海外移住家族会設立50周年を祝い、同会と本会合同の交流懇談会が行われた。

冒頭、海外移住家族会の次期会長に選出された中筋國雄副会長から「時代が変遷したが、これからも移住者及びその子孫の援護と弥栄のための活動を現地と母県との『絆』をキーワードとして継続していきたい」との挨拶があった。そして横山栄副議長の音頭により乾杯。その後、宮腰光寛衆議院議員、村井宗明衆議院議員、野上浩太郎参議院議員、柴田巧参議院議員らからお祝いのスピーチをいただいた。

懇談会では、ブラジル人を母にもつ高岡市在住の歌手隼人加織さんのボサノバの生演奏が流れる中、ブラジルの地酒カシャーサを用いたカイピリーニャが用意されるなど、市町村家族会、南米派遣教員、海外技術研修員を含む参加者は、南米の雰囲気を楽しみながら、和やかに懇談した。

席上では、森岡、茶木副会長、松井監事が、想い出と決意を熱く語った。南米協会の河合常則会長が激励のエールを送り、板倉均常務理事の万歳で締め括った。

ゲストとして参加した隼人加織氏

多文化共生推進研修員の紹介

奥野オルダリア巴氏

本年度の多文化共生推進研修員として、ブラジルのサンパウロ州から州立学校の教員オルダリア巴・奥野さんが7月末に来県した。オルダリアさんの両親は、福井県から、戦後のいわゆるコチア青年移民と花嫁移民で渡航した。

オルダリアさんは、事前研修の後、9月から高岡市立野村小学校で研修を受ける。

註　コチア青年移民
1955年から中南米最大級の農協「コチア産業組合」が、戦後移民事業も手掛けた。同組合の起源は、アリアンサ富山村移住開始の1927年に、同州内のコチア植民地と呼ばれる集団移住地で悪徳な商人や仲買人から生産者を守るため結成され、発展した。

オルダリアさんのQ&A

- **富山の第一印象は？**
  人が親切で優しい。
- **富山で行ってみたいところは？**
  五箇山で世界遺産の合掌集落をみたい。
- **好きな日本食は？**
  魚が好き。得に富山の魚は美味しいと聞いています。
- **日本の教育については？**
  日本の教育水準が高いことに注目し、学校現場に関心をもっています。
- **ブラジルと日本の違いは？**
  きちんと四季があること。
- **日本に来て一番したいことは？**
  立山で雪を見たいし、登山が好きなのでいろんな山に登りたい。

ブラジル県人会祝辞

ブラジル県人会会長
市川利雄

富山県海外移住家族会の設立50周年、誠におめでとうございます。

設立当初より貴家族会におかれましては、ブラジルの富山県人移住者に対して、当地に限らず帰国時の郷土でも尋常ならぬ御配慮を頂き、感謝しております。

1960年代から富山県が先陣をきり、県人移住者の子弟に対し、富山県の大学への留学、また県内の企業、県機関など官公庁での研修生を受け入れて頂いたことにより、後継者として活躍する彼らの技術向上に役立っています。この受入れ事業が、ブラジルの家族と県内に居る留守家族及び県関係者との付き合いのうえで、非常に強いきずなで繋がる基礎となり、大きな成果をあげていることは、衆目の一致するところです。これは、富山県の歴代知事をはじめ国際担当課の温かいご配慮に加えて、貴家族会の皆様が、創設の頃から若い彼らの滞在中に、親身になり励ましお世話をされた後押しの賜物と思います。

2010年には、富山県人ブラジル移住100年、県人会創立50周年及び富山県とサンパウロ州との友好協定25周年の式典に際し、石井隆一県知事、鹿熊正一県議会議長をはじめとする53名の大勢の皆様が、御出席くださいました。お蔭をもちまして、サンパウロの式典会場には、貴家族会の情報と県人会の連絡網により、100年前に渡航した3家族（青木、内山、扇浦）の子孫もめでたく顔を並べることができ、石井知事、鹿熊議長とともに揃ってお祝いのケーキに入刀するなど県人関係者は、大いに盛り上がりました。

すでに、ブラジル富山県人会も母県の貴家族会も、創立50年の歳月が過ぎましたが、当時と現在では、日伯両国ともに、まさに隔世の感があります。今は、新たな現実への挑戦が、次の世代、2世、3世、4世へと引き継がれようとしていますが　既に過去の世代とは大きくかけ離れつつあります。我々は、その通過点に生きる者として、新たな変化にも前向きな情熱をもって、新しい世代に『富山県とブラジル』の架け橋を引き継いでいかねばなりません。

最後にはなりましたが、将来にわたり貴家族会と弊県人会との強固なる連帯と友情の関係を保つとともに、相互に更なる前進を誓い、改めてブラジル富山県人会会長として貴家族会の末永いご発展をお祈りし、これをお祝いの言葉とさせて頂きます。

訪問団の知事、議長と並ぶ百年の家族

アルゼンチン県人会祝辞

アルゼンチン県人会
副会長　村籐　修

富山県海外移住家族会設立50周年誠におめでとうございます。移住という言葉が死語になりつつある昨今で、幾多の困難を乗り越えてこの家族会を運営して来られました歴代の会長、事務局長のご労苦とご努力に対し、改めて深く敬意を表し厚く感謝を申し上げる次第であります。

我々移民はそれぞれの国に移住以来、気候や風土、言語、風俗、習慣の異なるところで、新しい生活に挑戦、多年に亘って地域に根を下ろし、各国の発展に地道に貢献をするとともに夢ある人生の「礎」を築いてきたのです。

日本人移住者は一生を通じて死ぬまで一貫して正直さと勤勉さを示してきましたが、これが日本人の特性で日本の持ち合わせた文化です。これが外国に渡って他の文化、外国人とぶつかり衝突しあって新たな文化的な形成を成し遂げてきたのです。これは理屈ではなく、生の生活そのものなのです。　日本人の誇りと母県富山を繋ぐ思いに、こうした各国在住の移住者を陰に日なたに支えてこられた責務と使命はどれだけ移住者に取って励みであり、心強い味方であったか感謝の念を示さずには居られません。

元来富山県と云うのは海の幸、山の幸に恵まれ、経済的にも比較的整った県ですので移住者はわずかですが、国際的な広い視野をもって、これまで新たな新天地を求め、海外雄飛の希望に燃えて渡航した多くの先覚者がいます。このアルゼンチンにもこの志を継いだ2世、3世が、新しい社会の担い手として幅広い各分野で活躍しております。先般のような千年に一度といわれるような東日本大震災の国難には、真っ先にこれら2世、3世や移住者と関係したアルゼンチン人が復興を祈って手を差し伸べてくれました。

今後はこれまで築き上げてきたこの有効な繋がりを、もっともっと太くして育てていくことがこれから残されたものの使命ではないかと思っております。

「一隅を照らすもの、世界の四方を照らすものなり」

合掌

在亜県人会による県訪問団の歓迎

平成23年度収支予算

自　平成23年４月１日
至　平成24年３月31日

収　入　の　部

〔単位：円〕

科　目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	比較増減(△) (A－B)	備考
会　費	2,300,000	2,700,000	△400,000	
助成（負担）金	2,770,000	2,770,000	0	富山県 1,000,000円 市町村 1,770,000円
特別（周年記念）事業	0	9,954,000	△9,954,000	前年度は南米親善訪問団
繰　入　金	100,000	100,000	0	災害時の基金取崩し
諸　収　入	50,000	50,000	0	受講者テキスト代等
繰　越　金	740,512	476,569	263,943	
合　計	5,960,512	16,050,569	△10,090,057	

支　出　の　部

〔単位：円〕

科　目	本年度予算額 A	前年度予算額 B	比較増減(△) (A－B)	備考
事　業　費	2,346,000	2,113,569	232,431	
機関紙発行費	653,000	653,000	0	南米ととやま 2回 南米協会だより 4回
南米関係情報費	69,000	19,000	50,000	資料購入、ホームページ更新料
ポルトガル語教室開催費	710,000	530,000	180,000	富山（帰国生徒追加）・高岡
留学生･研修員受入協力費	154,000	154,000	0	受け入れ協力、交流活動支援
郷土訪問者歓迎費	100,000	100,000	0	
懇談・交流事業費	170,000	170,000	0	
移住者援護事業費	100,000	100,000	0	災害時の見舞金
日本語普及事業費	205,000	205,000	0	南米各国へ図書送付等
在県南米出身者支援事業費	85,000	82,569	2,431	
県出身者関係者の調査	100,000	100,000	0	
特別(周年記念)事業費	300,000	10,660,000	△10,360,000	海外移住家族会50周年
事　務　費	3,015,000	2,984,000	31,000	
会　議　費	225,000	225,000	0	
事務諸経費	2,790,000	2,759,000	31,000	
人　件　費	2,000,000	2,000,000	0	
旅費・交通費	70,000	69,000	1,000	
通信運搬費	160,000	130,000	30,000	
印　刷　費	160,000	160,000	0	
消耗器材費･雑費	400,000	400,000	0	
賃　借　料	292,000	292,000	0	行政財産使用料、維持管理費
予　備　費	7,512	1,000	6,512	
合　計	5,960,512	16,050,569	△10,090,057	

富山県南米協会役員名簿

（平成23年６月25日現在）

名誉会長	石井　隆一	（富山県知事）	会　長	㊐ 河合　常則	（前参議院議員）
名誉顧問	中沖　豊	（前富山県知事）	副会長	森　雅志	（富山市長）
名誉顧問	㊐ 鹿熊　安正	（前　会長）	副会長	高橋　正樹	（高岡市長）
顧　問	村井　宗明	（衆議院議員）	副会長	河合　隆	（北日本新聞社代表取締役社長）
顧　問	宮腰　光寛	（衆議院議員）	副会長	佐々　裕成	（ＹＫＫ㈱代表取締役副社長）
顧　問	橘　慶一郎	（衆議院議員）	副会長	石澤　義文	（全国商工会連合会長）
顧　問	長勢　甚遠	（衆議院議員）	理事長	㊐ 四方　正治	（県議会議員）
顧　問	野上浩太郎	（参議院議員）	常務理事	板倉　均	（北日本新聞社代表取締役副社長）
顧　問	山田　俊男	（参議院議員）	筆頭常任理事	松任　敏雄	（北日本新聞社相談役）
顧　問	又市　征治	（参議院議員）	常任理事	上田　信雅	（砺波市長）
顧　問	森田　高	（参議院議員）	常任理事	米原　蕃	（県議会議員）
顧　問	広野　允士	（参議院議員）	常任理事	㊐ 坂田　光文	（県議会議長）
顧　問	柴田　巧	（参議院議員）	常任理事	㊐ 高平　公嗣	（県議会議員）
顧　問	綿貫　民輔	（前衆議院議員）	常任理事	㊐ 杉本　正	（県議会議員）
顧　問	萩山　教嚴	（前衆議院議員）	常任理事	㊐ 坂野　裕一	（県議会議員）
顧　問	橘　康太郎	（前衆議院議員）	常任理事	菅沢　裕明	（県議会議員）
顧　問	吉田　健三	（元ブラジル大使）	常任理事	㊐ 夏野　修	（県観光・地域振興局長）
相談役	植出　耕一	（県副知事）	常任理事	㊐ 寺林　敏	（県教育長）
相談役	大家　啓一	（前小矢部市長）	常任理事	㊐ 老月　邦夫	（富山市副市長）
相談役	吉田　忠裕	（ＹＫＫ㈱代表取締役社長）	常任理事	高田　哲	（高岡市副市長）
相談役	荒井　毅	（北陸アルミニウム㈱社長）	常任理事	五本　幸正	（富山市議会議長）
相談役	八嶋　健三	（㈱北陸銀行特別参与）	常任理事	㊐ 高畠　義一	（高岡市議会議長）
相談役	上野　隆三	（北日本新聞社顧問）	常任理事	荒井政四郎	（北陸アルミニウム㈱監査役）
相談役	八倉巻忠夫	（元県議会議長）	常任理事	柳清　利勝	（高岡市議会議員）
相談役	坂井　昭二	（元県議会議長）	常任理事	押田　博	（富山国際学園常務理事）
相談役	向井　英二	（元県議会議長・元理事長）	常任理事	上江　崇春	（元県農林水産部長）
相談役	大上紀美雄	（元県議会議長）	常任理事	松本　寛	（元県生活環境部長）
相談役	竹内　弘則	（元県議会議長）	常任理事	山本　清	（富山県海外移住家族会理事）
相談役	北島秀一郎	（元県議会議長）	常任理事	大野　修	（富山県海外移住家族会理事）
相談役	㊐ 横田　安弘	（元県議会議長）	常任理事	恒川　健三	（富山県海外移住家族会理事）
相談役	㊐ 仲　外喜雄	（元県議会議長）	常任理事	橘　秀雄	（事務局長･同 家族会専務理事）
相談役	㊐ 梶　敬信	（元県議会議長）	理　事	㊐ 山辺　美嗣	（県議会議員）
相談役	鹿熊　正一	（前県議会議長）	理　事	川田　哲三	（元城端町長）
相談役	山本　修	（元県議会副議長）	理　事	市森　武	（㈱新日本コンサルタント代表取締役会長）
相談役	大永　尚武	（元県副知事）	理　事	堀田　義雄	（県青船会相談役）
相談役	齋田　道男	（前県副知事）	理　事	青柳　志郎	（北陸書道院理事長）
相談役	横沢　隼人	（元県出納長）	理　事	中筋　國雄	（富山県海外移住家族会副会長）
相談役	澤合　敏博	（元県出納長）	理　事	村田　郁雄	（元県青年の家所長）
相談役	塚原　鐵二	（前県出納長）	理　事	湯上谷　勉	（元県出納事務局長）
相談役	山崎　弘道	（元教育長(第13回青年の翼団長)）	監　事	成瀬　弘生	（㈳セーナー苑顧問）
相談役	八木　近直	（元県教育長）	監　事	森岡　元就	（富山県海外移住家族会副会長）
相談役	橋本　清	（元県教育長）			
相談役	福岡　隆	（元県教育長）			
相談役	石田　淳	（前富山市助役）			
相談役	㊐ 杉原　信介	（前富山市副市長）			

平成23年度　事業計画

自　平成23年４月１日
至　平成24年３月31日

Ⅰ　事業方針

本協会の設立目的に沿い、中南米諸国において活躍されている富山県出身移住者及び子弟家族との絆をより一層強めるとともに、父祖の郷土富山の地縁・血縁並びに風土に培われた文化をよりどころとして、将来にわたり本県と移住先との交流を深め、これらの諸国・地域との友好親善の促進に寄与するため、次に掲げる事業を実施する。

Ⅱ　事業計画

1．機関紙の発行事業

本会の機関紙、「南米ととやま」を毎年度２回、「南米協会　だより」を４回発行し、中南米諸国の情報、本県関係者等の　消息及び県内の出来事を掲載して、会員及び関係機関に送付するとともに、南米の移住家族等に配布するため、各国所在の県人会本部と同支部にも航空便により送付する。

2．南米関係情報事業

ブラジルの邦字新聞等を購読するのをはじめ、内外関係機関による定期刊行物、現地の県人会などから中南米地域に関する各種の新しい情報を積極的に収集する。また、ホームページを新しく立ち上げ、ポルトガル語版のページも加え、従来のもの（廃止）より内容を充実させ、南米からのアクセスも容易にできるように改める。

3．ポルトガル語教室開催事業

南米諸国を含め外国を理解し、友好親善の促進を図るためには、コミュニケーションの手段としての言語による対話が最も効果的であり、相手のことばと文化を知ることが重要である。本年度もブラジルの公用語であるポルトガル語教室を富山市（初級・入門）及び高岡市の両会場において開設する。なお、23年度では、景気低迷による雇用不安及び東日本大震災に伴う津波による原発事故の放射能問題の懸念から南米に帰国する日系人が増加しており、子どもたちが帰国後現地の教育に再適応できるように、日系人の子どもを対象にするクラスを新設する。

4．留学生・海外技術研修員等の受入協力事業

毎年度、本県に招かれる南米諸国出身の県費留学生・海外技術研修員及び多文化共生推進研修員らが、滞在中に県内において行う交流活動等に対し、協力し支援する。

なお、23年度に来県予定の海外技術研修員及び多文化共生推進研修員が、本会はじめ関係機関で企画される各種交流行事等に参加できるよう、受入れ大学、研修先等に配慮と協力を呼びかける。

5．郷土訪問者の歓迎事業

一時的に帰国し、県内に里帰りされる南米諸国からの訪問者に対し、効率的に短期間で、富山の風土に親しんでもらうため、要請に応じて関係機関と連携し、県内の産業・文化施設や立山黒部、五箇山など自然景勝地へ同行し案内する。また、必要に応じ、懇談会を開催して情報交換等を行う。

6．南米諸国関係者との友好・交流事業

本県と南米諸国との文化、経済分野における一層の友好親善の促進を図るため、あらゆる機会を利用し交流パイプの強化に努める。

7．移住関係者への援護事業

本県出身の南米移住者及び家族が、万一、病気、事故等による長期入院をはじめ、火災、天変地異による自然災害等の不慮の事態に遭遇された場合において、当該家族の立直りのために支援が必要と認められるときは、本会の「移住者援護基金積立金」を取崩し、現地県人会等を通じ見舞金を贈る。なお、近年においては、昨年も南米で気象異変により豪雨災害があったものの、幸いにして県出身者の被災は報告されず、適用がない。

8．現地での日本語の普及事業

ブラジルをはじめ、中南米諸国の本県出身移住者の子弟の日本語学習に役立てるため、広く一般にも寄贈を呼びかけ、収集した書籍等の資料に加え、本会の購入新刊書と併せて南米各国の現地県人会の本部及び支部に対し、送付する。

9．県内在住の南米出身者支援事業

県内在住の南米出身日系人約3116人のうちブラジル2，951人の大部分は、所謂デカセギとその家族とみられる。そして長引く経済の停滞に加え東日本大震災により、多くが雇用不安や収入減に直面している。このような状況に鑑み、民間の支援団体等と連携し、食糧支援を含む生活の支援を行うほか、日系人の子どもの教育問題などに関し、地域レベルの支援体制の充実を働きかける。

10．県出身移住者名簿の調査・整備事業

富山県人初の南米移民（明治42）から、すでに一世紀を経過し、移民第一世から子孫に世代が降下するに伴い、母県との地縁や血縁の意識が薄まる傾向にある。このような状況の中において、県出身の移住家族子弟が必要に応じ自己のルーツをたどるため、基礎資料を整備しておくことが不可欠である。将来とも、幾何級数的に増大する移住者の子弟家族を念頭に、関係者との交流発展の基礎資料にするため、南米諸国へ移住された先駆者から現在までの移住家族（三世代まで）の異動について、継続して調査する。

なお、2010年南米親善訪問団等の交流により、現地県人会との親密度が深まったので、今後の進捗が期待できる。

11．特別周年記念事業

(1)　富山県海外移住家族会設立50周年記念事業への協力
(2)　在亜富山県人会創立45周年記念事業

12．南米関連イベントへの協賛等

県内において開催される中南米関連イベント等で、本会の趣旨に照らし適切なものに対し、協賛又は後援を行う。